

令和6年度 第1回 小牧市健康づくり推進審議会 議事録

日 時	令和 6 年 5 月 15 日（水） 14 時 00 分～15 時 00 分		
場 所	小牧市役所本庁舎 601 会議室		
出席者	【委員】（名簿順） 高野 健市 小牧市医師会会長 三輪 雅一 小牧市医師会副会長 竹内 友康 小牧市歯科医師会会長 堀尾 恭正 小牧市薬剤師会副会長 小島 英嗣 小牧市民病院副院長 寺本 圭輔 愛知教育大学保健体育講座教授 夏目 有紀枝 名古屋経済大学人間生活科学部准教授 佐藤 史洋 小牧市立小中学校長会 増井 恒夫 春日井保健所長 土屋 一義 小牧市地区民生委員児童委員連絡協議会 山田 勇 小牧市老人クラブ連合会副会長 加藤 陽子 一般公募市民 中島 早織 一般公募市民 西尾 央 全国健康保険協会愛知支部 林田 賢 市内企業労務担当 【事務局】 江口 幸全 健康生きがい支え合い推進部長 小川 真治 健康生きがい支え合い推進部次長 野口 弘美 保健センター所長 西村 泰洋 保健センター所長補佐 三枝 尚子 保健センター 母子保健係長 森 里加 保健センター 成人保健係長 宮田 祐子 保健センター 成人保健係主査 永井 政栄 健康生きがい推進課長 倉知 佐百合 健康生きがい推進課 健康政策係長 小川 真波 健康生きがい推進課 健康政策係主査 田中 千月 健康生きがい推進課 健康政策係保健師		
欠席者	2 名 佐藤 清美 保健連絡員 青木 翔太 地域包括支援センター		
傍聴者	0 名		
配付資料	資料 1 小牧市健康づくり推進プラン（本冊子・概要版） 資料 2 令和 6 年度実施事業について 資料 3 ヘルスラボ・こまきの整備に係る基本方針 資料 4 小牧市における健康づくりの推進体制（当日配布資料）		
1 開会 （1）あいさつ 2 議題 （1）小牧市健康づくり推進プランについて 事務局） ・ 昨年度、委員の皆様にご審議をいただき、小牧市健康づくり推進プランを作成した。今後はこのプランに基づき、様々な取組を推進していくこととなる。 ・ 今後、本計画の進捗管理として、この審議会において、計画の進捗状況の確認や改			

善に向けた協議を進めていくこととなる。委員の皆様には、引き続き事業の推進にご協力を賜りたい。

高野会長)

- ・ 昨年度、委員の皆様よりプラン策定にあたり、1年かけてご意見をいただき作成したものになる。既に市民の皆様にも周知されており、検索いただければ概要版も本冊子も確認できるようになっている。
- ・ 委員の皆様は、完成したプランをよくご理解いただき、今後の議論に活かしていただきたい。

(2) 令和6年度実施事業について(資料2,3,4により説明)

■資料2_p4：いきいき世代個別歯科健診事業

増井委員)

- ・ オーラルフレイル健診の対象について、5歳刻みの年齢で実施するということだが、全員実施するのか。

事務局)

- ・ 令和6年4月1日が基準日となっているが、その時点で、40歳から80歳の5歳刻みの方がすべて対象となる。

増井委員)

- ・ 多くの方が対象となっているのは大変結構なことだと思う。小牧市では固いものが食べにくい人が多いということなので、こういった健診の結果はもちろんのこと、その背景として、生活習慣の状態を調べられるとより良い対策につながると思う。

事務局)

- ・ 県下でもこういった事業を行っている自治体はあるが、ここまでの年齢幅で実施している自治体はあまり無い。いただいた意見を今後の事業の参考にさせていただく。

高野会長)

- ・ 健診結果に応じた歯科保健指導について、このメニューは全て歯科医療機関が行うのか。市が実施している部分と混在しているように思うが。

事務局)

- ・ 「(1)口腔機能の向上に向けた個別指導」は、実施した歯科医院の歯科医師やスタッフの方により、対象者に必要な指導を選んでいただき指導をしていただく。
- ・ 「(2)市内実施歯科医療機関スタッフによる保健センターの事業紹介」は保健センターで実施している事業を対象者に合わせて歯科医院から紹介していただくものとなる。

高野会長)

- ・ 歯科医院において、ごっくん体操やパタカラ体操などの口腔体操等も実施しているのか。

竹内副会長)

- ・ 歯科医院では、パンフレット等を用いながら患者に合った体操をお伝えし、自宅で

実施していただけるよう個別指導を行っている。

■資料2_p3：図4オーラルフレイル対策

寺本委員)

- ・ 図を見ると90歳以上から固いものが食べにくい割合が多くなっているが、オーラルフレイル対策事業の対象者をみると75歳から84歳となっている。90歳以上は対象としないのか。

事務局)

- ・ なるべく早い段階での介入をとのことで、今回75歳から84歳を対象としている。
- ・ 85歳を超えると参加が難しい可能性も出てくる。ご意見を踏まえて、対象者については、検討したい。

寺本委員)

- ・ 85歳でも健康な方もいるため、どこかで、健康教育を受けることができる機会を設けていただきたい。

■資料2_p2：健康づくりの拠点整備

山田委員)

- ・ 基本方針において、平日は高齢期、休日は青壮年期がメインターゲットとなっているが、社会も多様化しているので、参加するタイミングは、参加者の自主判断に任せていただいた方がよいと思う。
- ・ ヘルスラボ・こまきの整備事業は、リピーターを増やすことが肝要であると考ええる。
- ・ そのため、例えばポケットサイズでもいいので、健康管理手帳のようなものを活用するというのも一つの方策ではないかと私は考える。

事務局)

- ・ メインターゲットに関しては、基本的にどの年代でも、開館時間内であれば来所いただけるため、そのように周知していく。
- ・ また、現在ヘルスラボ・こまきを運営する業者を選定しているところであるが、今回いただいた審議会での意見を共有し、運営方法や活用については今後検討していきたい。

■資料2_p1市内企業における健康経営の推進

林田委員)

- ・ 健康経営支援事業について、小牧市に力を貸していただけるとのことで有難く思う。
- ・ 健康経営優良法人の取得に関し、年々多くの企業が健康経営に興味を持ってきていることから全体のレベルが上がっており、企業からするとハードルが高い。
- ・ 小牧市内で、健康経営優良法人を申請していない企業や、申請してもうまく改善につなげることができていない企業もある。
- ・ そういった企業が、申請しやすく或いは取り組みやすくするように、市から企業に働きかけ、企業同士が集える情報交換の場を設け、小牧市の企業の底上げを効率よくしていただけるとありがたい。
- ・ また、大規模法人部門では健康経営優良法人の申請に、税別で8万円かかるため、そういった費用の補助があるというのもありがたいと考える。

事務局)

- ・ 企業の看護職とお話させていただくなかでも、どのように会社の中で健康経営を普及していくか困っていたり、推進にあたり孤独感を感じたりするといった話を聞いている。
- ・ そういった話から、担当者さん同士が集える情報交換の場は、健康経営セミナーなどの講座とは別で作りたいと考えていたところなので、今、ご意見いただいたことで、取り組みの後押しになった。前向きに考えていきたい。

■資料2_p2：健康づくりの拠点整備

夏目委員)

- ・ 先ほど増井委員より、歯の健診と生活習慣の調査という話があったが、食事についても同様と考える。フレイルというのは、栄養と運動と社会参加が三本柱になっており、栄養も大事なことであるため、フレイルチェックの際に食事の調査も上手く取り入れることができれば、貴重なデータが得られると思う。
- ・ 大学においても食事の研究を行うときに、「FFQ（食物摂取頻度調査）」や「BDHQ（簡易型自記式食事歴法質問票）」というアンケートを取って日頃の習慣的な食事の傾向をみるという調査があるため、大学としても連携できるところがあれば協力し、地域へ公表したり、幅の広い分析につなげていけたらと考える。
- ・ また、ヘルスラボ・こまきにおける情報コーナーにおいて、フレイルに関する食事のエネルギーやタンパク質、骨に関する情報提供を行いつつ、フレイルチェックをきっかけとして、食事のチェックについてもぜひ実施していただきたい。

高野会長)

- ・ フレイルチェック測定項目をみると、食事の項目は入っていない。夏目委員の意見を参考に、事業を推進していただきたい。

■資料2_p5：がん教育

高野会長)

- ・ がんの知識の普及ということは医療機関の役割の一つでもあると思うが、基本的な知識の習得というのは意外と難しいと感じる。専門家の立場からすれば常識的なことも、患者さんからみると難しいと話されることもあり、説明に苦慮することもある。
- ・ 他市町の取り組みも含めて、がんについての基本的な知識を習得するという意味で、市民レベルで活用できる冊子を含めた媒体などはあるのか。

事務局)

- ・ 中学生に向けての授業の際に持ち帰っていただくリーフレットがあるため、議事録送付の際にでも委員の皆様にも共有させていただければと考える。
- ・ 実際の授業の際は、リーフレットをもとにというより、がんの発生機序をみて分かっていたようなようなパワーポイントを用いている。
- ・ 一般向けにという点に関しては、例えば保健連絡員さんと一緒に学習をしたり、健康展において周知するような時には、がんセンターのホームページにわかりやすい資料があるため、そちらを活用している。
- ・ さらに乳がん検診では、自己検診といってご自身でチェックしていただくためのパ

ンフレットを用いて啓発している。

高野会長)

- ・ がん教育というのは生涯教育でもあり、よくわからず年を重ねてきた人もがんに罹るため、年齢層別での周知啓発媒体があるとよい。

佐藤委員)

- ・ 中学生では、がん教育の授業の際は一生懸命話を聞いてはいても、やはりがんへの実感がないという部分があると思う。家族でがんに罹患した人がいるとか、身近に関わったことがある子はそれなりに記憶に残っていくかもしれない。
- ・ がん教育の授業が終わった後も、何か内容を思い出せる機会があれば良いと思う。それが、高野会長が話された生涯教育ということなのかなと思う。

(3) その他

- ・ 議事録を作成後、皆様に確認いただいたのち公表したい。
- ・ 次回は、11月20日(水)午後2時から開催予定。

3 閉会